

約1週間にわたるスタートプログラムを、令和4年4月11日から行いました

本プログラムは、単なる新入生オリエンテーションにとどまらず、新校での生徒の道しるべとなるよう工夫されています。新校開校準備に関わってきた多くの人々の思いが詰まった本プログラムの実施は、大阪国際中高という大きな船が、ゆっくりと動き出す様を象徴するかのようにも感じられました。

1 理事長・校長対談 ~生徒への願いを込めて~

高校時代の写真を用いながら当時の経験等をざっくばらんに交えつつ、「素直な心で人の話を聞ける人」「謙虚な人」「志・夢や目標を持ち努力できる人」を目指し本校でしっかりと人生の準備をして欲しいと、二人の熱い期待に満ちた心のもった対談となりました。



2 グループワーク ~お互いを知ろう~

高校のグループワークでは、青少年野外活動センターのスタッフを招いて、目標設定等をクラスごとに行い、グループワークを実施。クラスメイトと相談しながら進めることで、お互いを知り、これから苦楽をともにする友人に出会う第一歩になったのでは。一方、中学では、様々なゲームを通して『みんなで協力し合うことで一気に仲間との距離が縮まった』と多くの生徒が感想に書いてくれました。



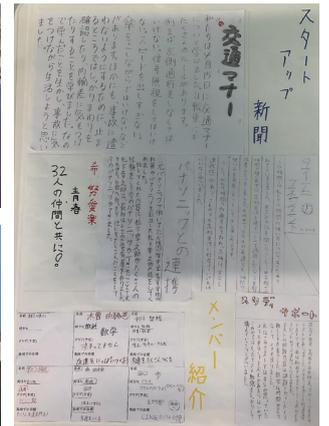
3 パナソニックへの訪問 ~先人から学ぶこと~

最終日には、松下幸之助記念館を訪れ、物事に対する探究心や強い意志、周りへの配慮など、松下幸之助という偉人の生き方に触れました。『これからの自分自身がどうするべきかを考えるきっかけになった』など、多くの生徒が感銘を受けたようです。



4 学校生活に不可欠な多彩なプログラム

校舎全体に配架されている本の利用案内を含めたキャンパスツアー、チャイムの鳴らない本校でのタイムマネジメント方法のほか、薬物乱用防止講演会、交通マナー講演会、SNS講演会、服育指導、OG・OB講演会、国際交流オリエンテーションなどなど、キャンパス全体を学びの場として活用するための様々なプログラムが実施されました。それらの総まとめとして、高校生は壁新聞を作成しました。今の時代、コンピューターを使えば容易なことも、ここはあえて手書きの模造紙で。互いに相談しながらの制作タイムは最高に盛り上がり、素晴らしい出来上がりとなりました。



5 さあ、人間をみがこう!

以上の様々なプログラムを通じて一貫していたのは、「人間」の関わり。本プログラムや開校準備に携わってきた多くの人々の思い、松下幸之助やその後の創業者たちの意志、そして同じ学校に学ぶようになった友人との出会いなど、人は人との関わりを通して成長するということを、生徒も感じ取れたのではないのでしょうか。「人間」の関わり的重要性とともに、生徒には「人間をみがく」を常に意識してほしいものです。そのために教員は最大限に援助します。今、大きな船は出航したばかりです。

